

Ⅳ 地域教材の活用にあたって

1 道徳の時間の指導の充実 ―多様な学習指導の構想―

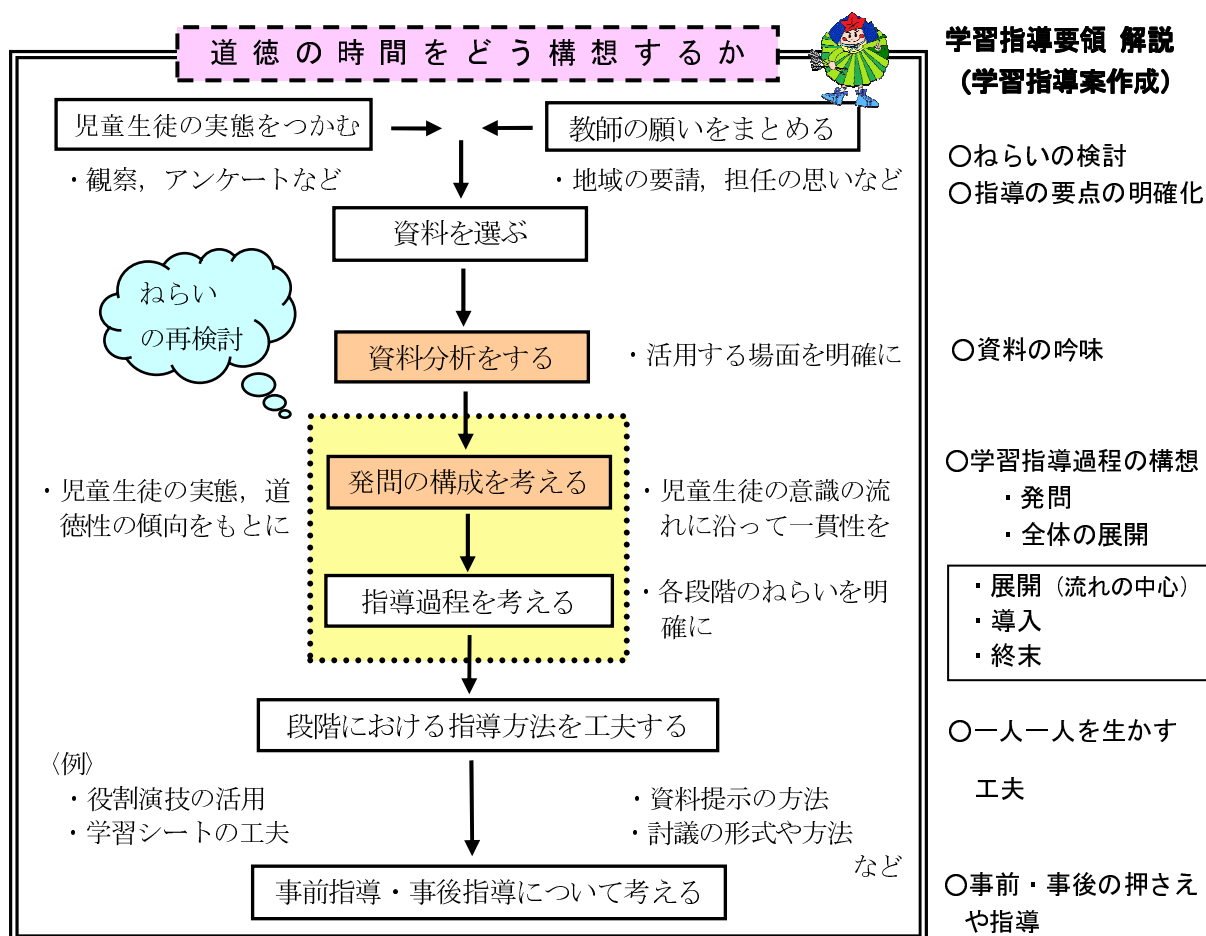
**開発した魅力的な地域教材を効果的に活用し、児童生徒に充実感を
もたらしような生き生きとした指導を進めよう**

道徳の時間は、児童生徒一人一人が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践に結び付く内面的資質としての道徳的実践力を育成する時間である。

道徳の時間の学習指導を構想する際には、指導する学級の実態、児童生徒の発達の段階、指導の内容や意図、資料の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもつことが大切である。このことを踏まえて、各教科等との関連や家庭、地域社会との連携を生かした心に響く学習指導の多様な展開を工夫することが大切である。その際、道徳教育推進教師の指導、助言のもとに創意工夫を行うことが求められる。

(1) 道徳の時間の構想 ―道徳の時間の特質を生かした指導―

主題のねらいを達成するために、児童生徒がどのように学んでいくのかを十分に考慮して、何を、どのような順序で、どのような方法で指導し、評価し、更に指導に生かすのかなど、道徳の時間の構想における各教師の創意工夫が期待される。



(2) 学習指導過程の創意工夫 ―道徳の時間に生かす指導方法の工夫―

道徳の時間の学習指導過程とは、ねらいの根底にある道徳的価値について児童生徒が内面的な自覚を深めていくための指導の手順を示すものである。すなわち、それは、児童生徒自らが望ましい人間としての生き方を追求し、道徳的価値についての見方や感じ方、考え方を深めていく過程を明らかにするものである。

道徳の時間の学習指導過程は、一般的に、導入、展開、終末の各段階を設定することを基本とするが、いたずらに固定化、形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切である。

導入段階	【学習への動機付けと道徳的価値への方向付け】 主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階であるといわれる。 ○工夫 ・生活体験を想起させて発表させる。 ・意外性のあるアンケート調査の結果等の資料を提示して児童生徒に疑問などをもたせる。 ・資料に関する絵画や写真、VTR、DVDや小道具などを見せて視覚的に印象付ける。 (体験の投影や疑問の掘り起こしをする。) ・録音テープや音楽CDなどを使って聴覚的に印象付ける。 ・主題のねらいにかかわる新聞記事、児童生徒作文、詩や短歌などを活用して、主題に引きつける。 ・地域の人々の協力を得て、児童生徒の興味や関心を高める。 ・実験や観察など実物に触れる体験などを取り入れ、学習への意欲を喚起する。 ※ 児童生徒に反省を強いるような問いかけを繰り返し、告白的な場となり、雰囲気をも損ねてしまうことのないように気をつける。
展開段階	【道徳的価値の追求と内面的自覚】 道徳の時間のねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な資料によって、児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める段階であるといわれる。 ○資料を印象的、効果的に提示する工夫をする。《※1》 ↓ ○児童生徒の話し合いの視点を引き出し、意欲的な話し合いへと巻き込む。《※2》 ↓ ○児童生徒一人一人の考えを十分に引き出す表現活動の工夫をする。《※3》 ↓ ○一人一人の違いを鮮明に浮き立たせ、多様な考えの違いを学び合わせる。《※4》 ↓ ○話し合ったことをもとに児童生徒自身の問題へと投げかける。《※5》
終末段階	【ねらいとする道徳的価値のまとめ】 ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして、今後につながる段階といわれる。とりわけ、児童生徒一人一人が、自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき確かめることができるような工夫が必要である。 ○工夫 ・児童生徒の考えを整理する。《※6》 〔 児童生徒の感想を発表させたり、書く活動を取り入れる。 教師の体験談や説話をしたり、補助的な資料を提示したりする。〕 ・各教科等との関連を図り、今後の発展につなぐ。 (これからの生活に向けてどうするかという戒めや決意を要請して、性急に実践化を意図したり、教師の考え方を押し付けすぎたりしないようにする。)

心のノートを活用しつつ…

ア 発問構成の工夫

道徳の時間の指導においては、人間性についての深い理解の上に立って、ねらいの根底にある道徳的価値を児童生徒が主体的にとらえ、人間としての生き方の自覚を深めることが大切である。

資料に含まれている道徳的価値に迫るためには、教師の発問が重要な切り口である。したがって、発問は教師により十分検討され、意図的、計画的に学習指導過程の中に位置付けられなければならない。少なくとも次のような点に配慮して発問構成を工夫したい。

① 読み取りに終わらない

資料に解答が記述してあることを聞くだけの発問構成にしない。もちろん資料の筋を確認する質問は必要な場合があるが、それに終始すれば資料の読み取りに終わることになる。中心発問はねらいとする道徳的価値について考える切り口にかかわるものとして設定する必要がある。

② 行動の仕方だけを問わない

行動の仕方だけを考える発問に終わらないようにする。道徳の授業は表面に現れた結果としての行動の仕方を問うだけではなく、その根拠である心の在り方に迫るものである。

③ 副詞・副詞句に注目

資料中の副詞や副詞句に留意して発問を構成する。人間の行動は動詞で表現されるが、その動詞を修飾して内面的な心の動きを表現するのは副詞や副詞句である。そこに注目して発問を構成することで、道徳的価値への深い迫り方が可能になる。

発問を構成する場合には、授業のねらいに強くかかわる中心的な発問をまず考え、次にそれを生かすためにその前後の発問を考え、全体を一体的にとらえるようにするという手段が有効な場合が多い。

イ 多様な指導方法の創意工夫

ねらいを効果的に達成するには、児童生徒の感性や知的な興味などに訴え、児童生徒が問題意識をもち、意欲的に考え、主体的に話し合うことができるように、ねらい、児童生徒の実態、資料の特質や学習指導過程などに応じて、最も適切な方法を選択し、実施できるように創意工夫することが必要である。

道徳の時間に生かす指導方法には多様なものがあるが、以下に主な指導方法の工夫を示す。

(下記《※1》～《※6》は、上記の表中《※1》～《※6》に対応させている。)

《※1》資料提示の工夫

資料提示の方法としては、教師による読み聞かせが一般に行われている。道徳の時間で活用する資料については、資料の種類や内容の程度、更に分量などの違いがあり、提示の仕方によって児童生徒の興味の程度や理解の深まりが左右される。児童生徒が資料の内容を臨場感をもって理解することができたり、主人公や筆者の感じ方や考え方に共感するようにするなど、資料の特性を生かす資料提示をすることが大切である。

なお、多くの情報を提示することが必ずしも効果的だとは言えず、選り抜かれた情報の提示が想像をふくらませる上で効果的な場合もあることに留意する。

- ①教師による表現の工夫（教師の読み方：抑揚等、動作など）を凝らした提示
- ②大型絵（掛図）や紙芝居、映像画面等を用いた提示
- ③紙人形やパネルシアター等を用いた小劇場的な提示
- ④映像や実物を生かした提示
- ⑤地域からの講師の協力を得た提示 など

《※2》話合いの工夫

話合いは、児童生徒相互の考えを深める中心的な活動である。読み物資料を生かして行われる話合いは、道徳の時間の指導に広く行われている指導方法であり、道徳の時間においても重要な役割を果たす。この方法は、話すことと聞くことが並行して行われ、児童生徒が友だちの考え方についての理解を深めたり、自分の考え方を明確にしたりすることができるので、主体的に道徳的实践力を身に付ける上で効果的な方法である。

- ①意見を出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じた話合い
- ②座席の配置を工夫した話合い
- ③討議形式やグループ、ペアによる話合い
- ④名札の活用、同じ考えをもつ児童生徒同士が集まるように座席の移動を行うなどによる一人一人の立場を明確にした話合い など

《※3》表現活動の工夫

道徳の時間に動作化や役割演技、コミュニケーションを深める活動などを取り入れることは、児童生徒の感性を磨いたり、臨場感を高めたりすることとともに、表現活動を通して自分自身の問題として深くかわり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳的实践力を身に付けることに資するものである。

- ①発表したり書いたりする活動
- ②特定の役割を与えて即興的に演技する活動
- ③動きやせりふの真似をして理解を深める活動
- ④音楽、動作、表情などで自分の考えを表現する活動
- ⑤実際の場面の迫体験、実験や観察、調査等による表現物を伴った活動 など

《※4》板書を生かす工夫

道徳の時間は黒板を生かして行うことが多く、板書は児童生徒にとって思考を深める重要な手掛かりとなる。板書は教師の伝えたい内容を示したり、その順序や構造を示したり、内容の補足や補強したりするなど、多様な機能をもっている。

その機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫、中心部分を浮き出させる工夫などを凝らすことである。また、教師が児童生徒の考えを取り入れ、児童生徒と共につくっていくような創造的な板書となるように心掛けることも大切である。

- ①劇場的、パノラマ的にして工夫した板書
- ②キーワードを浮き彫りにした板書
- ③構造的に構成して話合いを深める板書
- ④児童生徒が多様な形で参加する板書 など



《※5》書く活動の工夫

書く活動は、児童生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、重要な役割をもつ。この活動においては、必要な時間を確保することで、児童生徒は自分なりの取り組み方でじっくり考えることができる。また、学習の中で個別化を図り、児童生徒の感じ方や考え方をとらえ、個別指導を進める重要な機会にもなる。更に、1冊に綴じられたノートなどを活用することによって、児童生徒の学習を継続的に深めていくことができ、心の成長の記録として活用することもできる。

- ①登場人物の気持ちを書く吹き出しの枠を付けた形式
- ②吹き出し枠を各登場人物に配して対話を考える形式
- ③自分の考えについての評価欄が入った形式
- ④自分の体験を登場人物に伝える手紙の形式
- ⑤ゲーム的な内容を組み合わせた形式
- ⑥自由感想的に積み上げていくことができる形式 など

《※6》説話の工夫

説話とは、あるまとまりをもった内容を、教師が児童生徒に話して聞かせる指導方法である。教師が意図をもってまとめた話をするのは、児童生徒が思考を一層深めたり、考えを整理したりするのに効果的である。教師が自ら語ることによって児童生徒との信頼関係が増すとともに、教師の人間性がにじみ出る説話は、児童生徒の心情に訴え、深い感銘を与えることができる。

教師は、説話の効果が大きいことを鑑み、話題の選択、内容の吟味、話の進め方やまとめ方などを工夫することが大切である。なお、児童生徒への叱責、訓戒や行為の押し付けにならないように注意する必要がある。

- ①教師の体験談や願い
- ②児童生徒の日常生活における身近な話題
- ③児童生徒の関心や視野を広げる時事問題
- ④ことわざや格言、心に残る標語
- ⑤地域の自然や伝統文化に関すること など

Q：魅力的で多様な道德の授業を構想するにはどんなことに気を付ければよいですか。



A： 道德の授業が児童生徒の心に響き、やりがいのあるものになるようにするためには、次のような点に配慮しながら授業の構想に臨むことが大切である。

ア 道德の時間の特色や役割を明確にして構想する

- 道德的価値の自覚を大切にした学習指導過程
- 教師のねらいや意図を表す学習指導案の工夫

イ 授業の構想を表現する学習指導案を、教師の思いが表れるものとする。

ウ 多様な道德資料を生かすように努める。

エ 児童生徒の発達の段階や実態を柔軟にとらえて学習活動を構想する。

オ 学習の場や時間、指導体制、学習集団などを工夫する。

2 道徳の時間の指導における配慮すべき観点

心に響く道徳の時間の指導の一層の創意工夫と充実を図ろう ～道徳の時間を要として一人一人の道徳性を高めていこう～

道徳の時間の指導の一層の創意工夫と充実を図るために、道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮したい。

(1) 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する。

道徳の時間は、主として学級担任が計画的に進めるものであるが、学校や学年として一体的に進めるものでなくてはならない。そのために、指導に際して全教師が協力し合う環境をつくるなどの指導体制を充実することが大切になる。

【工夫】

- 道徳の時間における実際の指導の場面において他の教師などの協力を得る。
 - ・校長や教頭などの参加による指導
 - ・他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導
 - ・養護教諭や栄養教諭などの協力
- ※学校の教職員が協力して指導に当たることができるような計画づくりなどを、学校としての方針の下に道徳教育推進教師が中心となって進めることが大切である。
- 道徳の時間を実施しやすい環境づくりに努める。
 - ・道徳の時間に用いる教材や図書の準備、掲示物の充実、資料コーナー等の整備
 - ・具体的な作業場の設置 など
- 授業実施上での悩みを抱える教師の相談役になったり情報提供をしたりして支援する。
- 道徳の時間に関する授業研修を実施する。
- 道徳の時間の授業の公開や情報発信を積極的に行う。

(2) 体験活動を生かすなどの指導の充実

集団宿泊活動や職場体験活動、ボランティア活動、自然体験活動などの体験活動を生かすなど、児童生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

学校では、上記のほかにも、伝統と文化にかかわる体験や勤労生産にかかわる体験、福祉に関する体験を含め様々な体験活動を、総合的な学習の時間や特別活動で進めている（小学校低学年の段階では、生活科等の中で多様な体験を通じた学習が進められる）。

これらの活動は、活動するだけで終わらせることなく、事前に体験活動を行うねらいや意義を児童生徒に十分に理解させ、活動についてあらかじめ調べたりすることなどにより意欲をもって活動できるようにするとともに、事後に感じたり気付いたりしたことを自己対話しながら振り返り、まとめたり、伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有したり、広い認識につなげたりすることができるようにする。このことは、それぞれの学習活動での工夫を図ることを通じて一層の充実が図られなければならない。

(3) 魅力的な教材の開発や活用

先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、児童生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用を通して、児童生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行うこと。

※ 詳細については、「広島県道徳教育指導資料『地域教材開発の手引』」PP.8-13 参照

(4) 言葉を生かし（表現し）考えを深める工夫

自分の考えを基に、書いたり話し合ったり（討論したり）するなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるよう工夫すること。

学校の教育活動全体で言葉を生かした教育の充実が求められている。

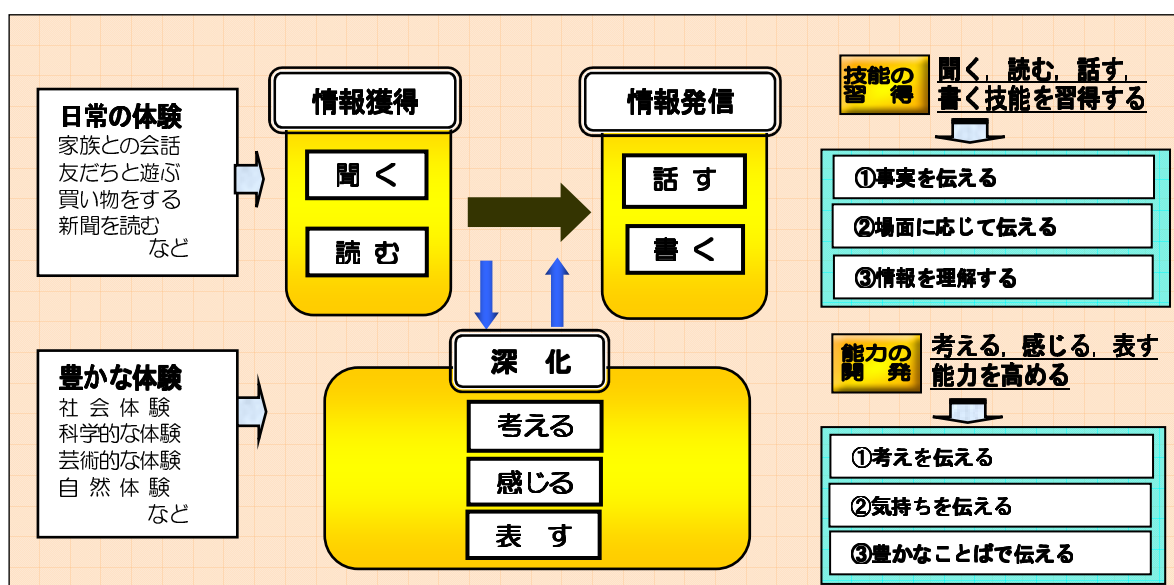
言葉は知的活動だけでなく、コミュニケーションや感性、情緒の基盤である。道徳の時間においても、その言葉を生かした教育についての充実が図られなければならない。

道徳の時間は、国語科における言葉にかかわる能力を基本に、資料や体験などから感じたこと、考えたことをまとめ、発表し合ったり、討論や討議などにより意見の異なる人の考えに接し、協同的に議論したり、意見をまとめたりする。例えば、資料の内容や登場人物の気持ちや行為の動機などを考える。友だちの考えを聞いたり、自分の考えを伝えたり、話し合ったり、書いたりする。更に、学校内外での様々な体験を通して感じ、考えたことを、道徳の時間に言葉を用いて生かし合ったりする。これらの中で、言葉の能力が生かされ、一層高められていく。

したがって、道徳の時間においては、このような言葉の能力を総動員させて学習に取り組ませることが、ねらいを達成する上できわめて重要であると考えられる。

【参考】確かな「ことばの力」の育成（平成22年度広島県教育資料などから）

次の図は、本県における「ことばの教育」の考え方を概念図に表したものである。



児童生徒が、日常の様々な体験を通して情報を確実に理解するとともに、場面に応じて事実を

正確に相手に伝えることができるようになること、さらに、豊かな体験によって自分の考えを深め、豊かな表現ができるようになることが、「ことばの教育」の目指すところである。

(5) 情報モラルの問題に留意した指導

児童生徒の発達の段階や特性を考慮し、小・中学校学習指導要領「第3章 道徳」第2に示す道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること。

情報モラルとは情報社会で適正な活動を行うためのもとになる考え方と態度ととらえることができ、その内容としては、個人情報保護、人権侵害、著作権等に対する対応、危険回避やネットワーク上のルール、マナーなどが一般に指摘される。

情報モラルに関する指導について、道徳の時間では、その特質を生かした指導の中での配慮が求められる。

指導に際しては、情報モラルにかかわる題材を生かして話し合いを深めたり、コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れたり、児童生徒の生活体験の中の情報モラルにかかわる体験を想起させたりする工夫など、創意ある多様な工夫が生み出されることが期待される。

なお、道徳の時間は、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることを通して道徳的実践力を育成する時間であることの特質を踏まえ、例えば、情報機器の使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことにその主眼をおくのではないことに留意する必要がある。

3 地域教材を活用した学習指導の多様な展開

地域に根ざした道徳教育を充実していこう

《ふるさと それは、わたしに やすらぎと やさしさと あたたかさをあたえてくれるところ》

文部科学省（平成21年）「心のノート」平成21年度改訂版（小学校5・6年）P.104 から

(1) 地域教材の特性を生かした指導 ―「地域」をどうとらえるか―

日本をはじめ、世界の国々や地域、さらには民族などにおいて、大切に守り誇りとしている文化や伝統がある。日本の中でも、多様な地域社会（郷土）にそれぞれの文化や伝統があり、また、家庭や学校においても独自の文化や伝統がある。家族愛や愛校心、郷土愛、愛国心なども、このような文化や伝統に基づいて育まれる。

〈参考〉中学校学習指導要領解説 社会編 から

第2節 各分野の目標および内容〔地理的分野〕2 内容 (2)日本の様々な地域

エ 身近な地域の調査（内容の取扱い）

……身近な地域は、生徒が生活舞台にしている地域であり、学習対象を生徒が直接体験できるといった特質を有している。（中略）

……なお、学習対象としての「身近な地域」は、学区を基に、生徒の日常生活圏や行動圏を考慮して適切に設定することが大切である。

また、「市町村規模」とは、「身近な地域」の学習を通してとらえることのできる、いわば直接経験地域の規模のことであり、それを行政区を使って示したものである。したがって、この項目における学習対象地域は必ずしも行政区の市町村を意味しているわけではなく、実際には市町村より小さな学区を基にした地域であったり、複数の市町村にわたって設定したりする場合が考えられる。

【ポイント】※児童生徒にとっての地域

- ・児童生徒の発達の段階を考慮
- ・体験活動等との関連を考慮

(2) 地域教材を活用した学習指導過程の工夫〈試案〉

活 動	道徳的ねらい	留 意 点	
教科 特別活動 総合的な学 習の時間 (体験活動 調べ学習) 等	・道徳的価値 に触れ、課 題意識をも つ	○ 道徳的価値にかかわる課題意識をもたせる。 ◆素材にかかわり、見学や取材をしたり、図書室、インターネットな どで調べたりする。 ○ それぞれの思いで伸び伸びと体験活動等を行う。 ◆地域文化に詳しい人、伝統芸能や工芸の継承者等と交流を図る。 ○ 課題意識が連続するよう学習環境を整える。 ◆道徳ノートを活用したり、道徳コーナーを設置(教室等)したりする。	
道 徳 の 時 間	学 習 指 導 過 程	学 習 活 動	指 導 法 の 工 夫
	導 入	1 ねらいとする 道徳的価値に気 付く	◆映像資料や、伝統的な音楽や絵画、実物、新聞記 事などを用いて問題意識を掘り起こしたり、 <u>主題</u> への興味を喚起したりする。 ◆事前アンケート等の結果などを活用する。 ◆友だち同士で事前の体験活動等における互いのよ さ等を話し合う。
	展 開	2 資料提示 (資料との出会 いを感動的なも のにする) 3 ねらいとする 道徳的価値につ いて考えを深め る	◆地域文化に詳しい人や伝統芸能や工芸の継承者等 の登場(ゲストティーチャー)、地域素材をもと にした自作資料(BGMを流したり、実物に触れ させることなど積極的に取り入れたい)、VTR、 劇化、インタビュー、紙芝居、ペープサート、写 真、数名の教師による範読などによってインパ クトの強い資料提示になるようにする。 ◆役割演技など表現活動を取り入れたりすることに よって、具体的な模擬体験を通して相手の心情や 考えを感じとらせる。 ◆実際の体験活動や調べたこと等を想起することで、 自己のものの見方や考え方、感じ方についてみつ め、そのよさや課題に気付くようにする。 その際、小グループによる話し合いを行い、地域 文化に詳しい人、伝統芸能や工芸の継承者等に加 わっていただき支援をお願いすることも考えられ る。
	終 末	4 道徳的実践へ の意欲を高める 5 本時のまとめ	◆主人公に手紙を書いたりアドバイスをしたり、逆 に主人公の立場で自分に手紙を書いたりしてみる。 ◆地域文化に詳しい人、伝統芸能や工芸の継承者等 を招いて話を聞いたりする。 ◆教師の話を聞く。 その際、文化や伝統についての教師の体験、願 いなどを素材とするだけでなく、印象的な題材を 日常から集めておき、適宜生かすようにする。 ◆次への体験活動や日常生活に生かそうとする意欲 付けをする。
教科 特別活動 総合的な学 習の時間 (体験活動 調べ学習) 等	・道徳的実践を めざす	○ 児童生徒の主体的な活動になるようにする。 ◆授業の中からよさの芽を見出し、さらにそれを伸ばすための手立て やよさの芽が伸びるのを妨げている部分の克服に関する課題等を個 別に考えていく。 ◆道徳の授業に関すること(児童生徒の様子など)を学級通信等で保護 者等に伝え、連携を図る。 ○ 道徳的価値の内的自覚を生かし、意欲的に活動する。 ◆具体的な体験の場を意図的に設ける。	

【学習指導構想シート】例

【多様な学習指導を構想しよう】



☆ 地域教材の特性と道徳の時間の特質を生かした学習指導の工夫

— 学習の指導過程や指導方法の創意工夫 —

学習指導要領解説

(小) p. 79-89

(中) p. 82-94 を参照

(1) 主 題 名 「 _____ 」 (内容項目 : _____)

(2) 対 象 学 年 _____

(3) ね ら い _____

(4) 資 料 名 「 _____ 」

(5) 主題設定の理由 _____ 略

(6) 学習指導過程

段階	学習活動 (※指導方法の工夫)	取り入れた理由
導 入	1 心の耕し, 課題の設定	
	2 資料の提示	
展 開	3 価値の追求把握	
	4 価値の一般化	
終 末	5 学習の整理, 意欲付け	

